

がん検診他各検診への影響

理事 細野 浩之

新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）が広がるにつれ、人々は行動制限を行うようになった。通りには人がいなくなり、新潟の街も駅周辺や万代地区でさえ閑散として、皆マスクをして家に戦々恐々として閉じこもっていた。医療機関でも患者が受診しなくなり、待合室は閑散となった。定期健診など急を要さない部門では特に、受診者の減少がみられた。新潟市でのがん検診他各検診にはどのような影響があったのだろうか。

検診は基本的には健康な人を対象とするため、行動範囲の広い人も対象とする。新潟県内では比較的感染が広まっていない時でも、東京など各地へ出かけた人はコロナウイルスに暴露される可能性があり、受診制限の対象となった。また、コロナに感染している可能性がほぼないと思われる人も、医療機関や健診機関で人ごみに触れることにより感染するのではないかと、受診するのを恐れ、検診受診者が少なくなっていた。集団感染を防ぐためにも健診施設では検診を行わず、一時的に閉鎖するところも出てきた。また閉鎖しないまでも受診者数は限定され、ごく少数の受診者しか受け入れられなかった。検診車で胸部レントゲン写真や胃のバリウム検査なども中止を余儀なくされた。感染しては大変だ、検診など受ける時期ではない、といった風潮がみられていた。そのような中、各医療機関や健診施設では、感染予防対策

を十分に行い、検診を脈々と行っていった。

検診の受診状況はどうだったのだろうか。2020年が最も受診に影響があった年である。各がん検診の受診者数の変遷を表にまとめる。2020年前後で受診者数を確認すると2020年は減少し、その後は徐々に増加傾向にあるが、2023年現在、まだコロナ前の受診状況には戻っていない。受診者減少で、一番影響を受けたのは肺がん検診である。他の検診では落ち込みは軽度である。ただし、胃内視鏡検診についての受診者数は、ちょうど2年に1回の検診への移行が行われたため、参考とするには難しい。また、乳がん検診では2020年度より、施設検診年齢上限が59歳から69歳に引き上げられ、さらに2021年度は、感染対策のため70歳以上も施設検診対象としたため受診者数の増加がみられている。

検診を受けなかったことにより発見されるべき癌の発見が遅れる例が増えているか、などの検討はまだなされてはいない。ただ、例えば肺がん検診では、2020年は受診していなかったため、2021年にかなり進行していた状態で発見された症例が存在していた。もう少し長い目で見ての検討が必要になると思われる。検診は定期的に連続して受診していくことに意味を持ち、今回のコロナウイルス感染の蔓延のような状態が起きると、大きく影響を受けることが確認された。

各種がん検診年度別受診者数推移

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
胃がん検診	64,063	48,185	36,092	39,295	38,821
内視鏡	43,500	27,614	20,660	21,930	21,664
施設X線	11,889	11,971	11,664	11,866	12,594
集団X線	9,214	8,600	3,768	5,499	4,563
肺がん検診	39,564	38,592	23,856	32,394	33,121
大腸がん検診	73,755	71,755	62,790	66,084	66,454
乳がん検診	16,424	16,271	13,614	17,207	15,602
施設	4,278	4,428	5,634	8,501	7,443
集団	12,146	11,843	7,980	8,706	8,159
子宮頸がん検診	20,644	19,977	19,188	19,772	19,197